班ゼミ

田中 努

平成 17 年 5 月 30 日

テーマ:結合価パターンへの情緒属性の付与

1　内容

1. 情緒推定機構に用いる知識ベースの構築/前提条件の付与
2. 表現集を用いた条件検査方式の実装/情緒推定能力を評価

2　進捗状況

2.1　人生状況

やっとこさ内定でました．
→地元の山口が本社の会社ですが，希望した職種は栃木県でやっているらしいです．
→アチャー (ノ∀｀)
→それでも就職承諾書を企業先に提出しました．
→人生ほぼ決まりました．
→色々思うところはありますが，とりあえず卒業はしようかと思います．

2.2　研究状況

情緒生起の特徴には，文脈情報や世界知識を用いて解析しなければならない部分があり，その部分は結合価パターンの範囲を越えるため，意味理解から判断情報を得られるものとします．そして，その情報を検査するための属性として「前提条件」を今後付随させていく予定です．

具体的に < 獲得 > の LLF について見ていきます．まず < 獲得 > を付与したパターンとして 2 例ほど挙げます．

結合価パターン:　N1 が/から N2 を N3 に/へ 与える
N1(3 主体) N2(331 称号 927 記章 1857 褒賞) N3(3 主体)
生起原因：獲得　情緒：喜び 情緒主：N3　　情緒対象：N2

結合価パターン: N1 は N2 から N3 に/へ N4 が 上がる
N1(4 人) N2(318 人〈地位〉 224 人〈職業〉) N3(318 人〈地位〉 224 人〈職業〉) N4(318 人〈地位〉“ ポスト”)
生起原因：獲得　情緒：喜び 情緒主：N1　　情緒対象：N3

< 獲得 > のパターンについて必要な前提条件は 1 つ目の例を用いて言えば，以下の rule.1 もしくは，rule.2 内の条件が必要であると思われます．また，2 つ目の例も rule.1 もしくは rule.2 の条件の N の変数を変えるだけで十分であると考えられます．

rule.1

条件：< N1 が目標 G をもつ >
条件：< 目標 G はプラン P で実現可能 >
条件：< プラン P には N2 が必要 >

rule.2

条件：< N2 の入手はコストが高い >

例の用言の意味属性は《属性変化》《所有的移動》ですが，同じ < 獲得 > を付与した他の意味属性の用言

《思考動作》
——N1(3 主体) が N2(441 スタジオ 437 宿泊施設 868 部屋 2612 席 389 施設) を押さえる
《物理的移動》
——N1(762 持ち物) が N2(3 主体) に/へ返る

などにも rule.1,2 で十分条件であると考えられますので < 獲得 > に関してはほぼ全て同条件で指定できるものと思われます．さらに，< 獲得 > の反対語の < 喪失 > にもこの条件でおおよそ適用可能だと思われるので意外に短時間で付与できるかもしれません．あくまで「かも」です．

今後は結合価パターンによって rule の数を増やし，付与していく予定です．

最後に条件の判定ですが，予定としては N1 や目標 G などは変数を用意し，< 目標 G はプラン P で実現可能 > ，< プラン P には N2 が必要 > などのいわゆる関係性の判定については本年度の古塩君の研究に依存する予定です．

3　今後の予定

- 前提条件の付与